

2016年度 つくも幼児教室 事業報告

つくも幼児教室は、児童発達支援センターとして、児童発達支援、保育所等訪問支援、相談支援、障害児等療育支援事業等により、運営目標・事業計画にそって地域の障害児支援に努めてきた。運営目標については次年度も継続していくことを確認した。

1.事業活動重点事項の成果及び課題

①児童発達支援

- ・ 人への安心感を育てること・豊かな遊びが児童の発達に大切であるという共通認識のもと保育を行うことができた。「楽しくわかりやすいあそびの工夫」「個々の児にあったクラス編成」「集団と個別の支援」等で成長発達を促すことができた。更に各児に必要な支援を充実していくことが課題となる。
- ・ 2つの家族担当グループにより、児童及び家庭についての理解を深め、個別支援計画を作成し、計画に基づいて継続した支援を行なった。困難なケースについては、事例検討等で、課題や方向性を明らかにし、職員全体で支援できるようにしてきた。
- ・ 生活支援について、個々の家庭状況により個別送迎、延長保育等により家庭生活の安定に努めた。
- ・ 給食提供により食への意欲・食具の使用・児にあった摂食支援を通して成長を促すことができた。
- ・ **定員30名に対して契約者は55名であった。**(利用状況参照) 併行利用が多いこともあり、曜日の調整により待機児をださずに受け入れることができた。
- ・ 保護者については、児童の発達についての心配、家族関係、保護者自身の疾病等様々な問題を抱えていることを意識して関わってきた。保育への要望や保護者自身の体調の不安等の訴えも出され、その都度職員全体で話し合い対応してきた。今後も、変わっていく保護者の状況やニーズをとらえ応えていくこと、発信しやすい環境作りが課題となる。相談支援専門員との連携により保護者の要望等を把握し支援していきたい。

<利用状況> 年間開園日数：242日 1日の平均利用率：25.2人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開園日数	19	20	22	21	19	20	21	21	19	19	20	21
出席率	24.5	22.6	22.5	26.9	27.7	25.8	23.4	24.5	26.4	25.9	25.4	27.7
契約者	45	45	48	50	50	51	53	53	54	54	54	55

<障害種別>

知的障害 46名 肢体不自由 7名 発達障害の疑い等(知的障害のない) 2名

<年齢別内訳>

年長児：13名 年中児：13名 年少児：17名 未満児：12名

<市町村内訳>

市町村	茂原市	長生村	白子町	一宮町	大網白里市	長南町	長柄町	いすみ市	大多喜町
人数	37	6	3	2	1	1	1	3	1

<卒園児の動向>

大網白里特別支援学校：5名、 夷隅特別支援学校：2名
学区内小学校特別支援学級：4名、 学区内小学校：2名

②保育所等訪問支援

- ・ 併行利用児に対して、保育所等での成長を保障することを目的に、訪問を実施してきた。児童への支援、職員への助言(児の見方、関わり方、成長の確認等)を行なった。その結果、成長を促すこと、保育所等で発達に心配のある児童を安心して保育をしていくことにつながったと思う。
- ・ **継続の園については、関係もできて訪問を待っている園もあった。**新規の園についても、併行利用児や他に気になる園児についても相談したいという園が多かった。継続することで制度についての理解が広がってきた。今後も保育者との良い関係づくりが必要と考える。

<利用状況> 契約者：25名 訪問保育所・幼稚園：18園 訪問件数63回

③相談支援

- ・ 保護者の不安や要望を聴き、児童及び家庭の様子を把握して利用計画を作成するよう心掛けてきた。計画作成等の依頼については、断らず受けてきた。また、早急に事業所を利用したい場合にも、関係機関との連携により希望に添えるよう努めてきた。
- ・ 利用計画作成等事業所利用に関することだけでなく保護者の状況によりこまめに連絡を取り不安や困りごとに応えるよう努めてきた。今後も継続していきたい。また、今年度は、他機関と連携しながら、訪問時に衛生環境を整える等家族全体に関わる支援も多々あった。保護者自身への支援も今まで以上に目を向ける必要がある。
- ・ 市町村の担当者、他事業所との連携に努めてきた。今後も継続していく。
- ・ ケースの増加に伴い計画作成とモニタリングの時期が重なることがあり保護者との時間調整が難しい時もあった。2月・3月のモニタリングでは非常勤の職員を雇用した。
- ・ 卒園後の支援について、複数個所の事業所を紹介し安心した利用につながった。

<利用状況> 契約者：154名 計画作成：154件 モニタリング：331件

④障害児等療育支援

- ・ 障害が確定しない気になる段階の児童や市町村健診事業のフォロー、保育所・幼稚園への支援、児童発達支援の利用を見据えた前段階の利用等保護者、児童の状況に合わせて活用することができた。

<利用状況>

事業名	外来療育	外来相談	訪問療育	訪問相談	施設支援指導	合計
件数	267	32	4	2	32	337

⑤その他市町村事業

- ・ 長生・夷隅郡市の市町村健診、育児相談、親子グループ遊び、保育所等の巡回事業に参加した。その中で療育につながるケースが多数あった。また、保健師・各市町村の児童に関係する当職員等と顔を合わせる機会が多かったことで相互に相談しやすい関係ができてきた。虐待防止等も含め今後も良い関係を継続していきたい。

2.運営について

①研修

- ・ 内部・外部研修、事例検討、各ミーティングを通して、資質の向上、専門技術の習得に努めてきた。研修等で得た知識、技術を実践にいかしていきたい。各事業をより充実していくために、職員の力量を高めていくことが課題となる。

②会議

- ・ 会議を通して共通理解を深めるよう努力してきた。その為に事前に資料を配布し、各自が意見を持ち会議に臨むようにした。新しい職員は、年度当初発言することが難しかったようだが徐々に考えを言えるようになってきた。今後も継続していく。

③事故の発生

- ・ 子どもが敷地外に出た後気づくことがあった。壁の角に頭をぶつけ傷つけ縫うことがあった。安全面について職員相互の動きや保護者への対応等反省・確認した。併せて、垣根の補修・コーナガードの設置等環境面の不備について改善した。今後は事が生じる前に整備していく。
- ・ 発作のある児について、保護者とマニュアルを作成し対応してきた。
- ・ 送迎、給食については事故なく提供することができた。

④その他

- ・ 職種間・職員間の連携に努めつくも幼児教室として仕事をしていることを個々の職員が意識し大切にしてきた。今後もチームとして良い仕事をしていけるようにしたい。
- ・ 屋根・外壁の大規模修繕を無事終え雨漏りの心配がなくなり保育環境を整えることができた。